

セラマットを使った浴室床暖房リフォーム現場調査時の留意点

1. 床暖房が設置可能かどうか確認する。

脱衣室の床と洗い場の床の段差が5cm以上必要です。
バリアフリーの浴室には設置できません。

2. 床を嵩上げてバリアフリーにする場合の留意点。

バリアフリーになるように床を嵩上げて床暖房を敷設する場合は、ドアとの水仕舞いの関係からドア下にグレーチングを新設して、排水経路を確保することが必要になることもあります。

3. タイル仕上げ後の水勾配に注意してください。

既存の床の水勾配の形状によっては、セラマットを敷き詰めると、部分的に水勾配が取れなくなり、タイル仕上げが難しくなることがあります。
セラマットを敷き詰めると水勾配が取れない場合は、その部分はセラマットを敷かず、モルタルだけで水勾配を作ってタイルを貼るなどの工夫をしてください。

4. 既存排水口との取り合いを確認してください。

既存の排水口に向かって水勾配が集中できるような部材の手配や、タイル割などの事前の方向付けが必要です。既存の排水口より大きなグレーチングで排水口周辺を一体でカバーしてしまう方法で対処するのが綺麗な納まりかと思えます。
排水部分を表面仕上がりレベルより、落とし込んだままにする方法もあります。

5. タイルの選択をしてください。

I N A Xの新砂岩シリーズのように段鼻、屏風曲りなどの役物があるタイプをご利用ください。

6. 給湯機の設置場所の確認をしてください。

ガスの場合は自動補給水タイプか不凍液循環タイプで給水設備との絡みが変わります。
マンションなどでガス機器が設置できない場合は専用の電気温水器を使用します。
ガス温水器の設置には防滴型の電気コンセントの設置も必要になります。

7. 温水パイプの壁貫通部分の取り合いと防水を確認してください。

貫通部分から温水器までの温水パイプの経路の確認をしてください。
壁貫通部分はコーキングなどで十分な防水対策をしてください。
浴槽が邪魔をして、温水パイプが外壁などに貫通できないと、温水器と接続できず、リフォームが不可能な場合もありますので、ご注意ください。

8. 1回路の温水パイプの総延長には限度があります。

温水パイプのピッチは5cmと敷設間隔が狭いので、敷設量がかなり多くなります。
そのため、1回路としては約70m程度、約1坪以内としてください。
それ以上の場合は回路数を増やしてください。

簡単なレイアウト図を作り、使用部材のリストを作って下さい。

部材は余裕を持った数量を確保してください。

余った部材は次回の施工に使うように、大切に保管してください。